

手工業 の 歴史



技術史 ノート [14]

生産技術史研究室

手工業を専門とする人間活動は人類がある程度の集團生活をするようになってからあらわれてくる。専門工人はわが國では行政や祭祀をとりおこなう部とならんで職業別に工部(たぐみべ)、弓削部(ゆげべ)、服部(はとりべ)等の團體として、古代ローマではそれぞれ職業別のコレギアとよばれる團體として、すでに神話時代からあらわれている。自由な市民工人の團體であるコレギアも古代末期には、奴隷工人の進出により没落し有力者の私有する工業奴隷となつてしまった。わが國における豪族の私有した工人の集團である部は大化改新(646年)によつて公的制度としては廢止されたがその社會的位置は依然として工業奴隷であつた。主生産である農業における農奴制生産は時代とともに地代率を一定化させ、農業生産性の増加は農民の有利となり、社會のある程度の安定は餘剰生産物を商品化する交換の機會を生じ、生産を増すために支配者としていろいろの形で農奴を解放させるようになった。農奴よりもさらに有利であつた工業奴隷もこの頃から支配者に一定の貢納をして營業權を獲得し一般生産に従事するようになった。わが國ではこの工人たちは鎌倉時代(13世紀)以後、「座」という集團であらはれてくる。「座」の成員は社寺、領主等「本所」と保護、被保護關係をむすび、貢納に對して局地的需要を獨占する種々の保護をえて「座」外職人を壓迫し專賣權を確立しようとした。この形態で手工業者は繁榮し、さらに職業の獨占、排他性を強めたが、中世末期にその保護者たちの没落に代つた新興領主たちは、自領内の産業を振興させるために、その自由な發達を阻害する獨占的な「座」の制度を廢し、關稅を免除し營業を自由にして農村における商工業の要素を17世紀初頭の城下町に集中させた(樂市、樂座)しかしこの自由營業は一時的現象で工人は徳川幕府の時ふたたび職業を獨占し、利益を確保するため、前代の「座」に代つて、「株仲間」組織を結成するが、これは自由な仲間の團體として西歐のギルドに近いものであつた。

西歐においても工人は農奴解放(11世紀以降)に前後して解放され、交易の増大により各地に發生した都市でギルド(Gild, Zunft, Corporation)を作り、職業ごとに生産と販賣の獨占をめざしてギルド規約を定め、宗俗封建領主の權力とむすんでギルドの經濟外強制を確立し、地域ごとに割據し、わが國の「座」や「株仲間」と異つて都市政治を支配する單位にもなつたが時代とともにギルドの政治活動は終り、もつぱら職業上の利益に専念するようになってしまった。さらにギルド内部に生じた貧富の階級分化および商業資本の侵入により、それまでギルドにより支配されてきた販賣と生産の二面は分離され、ギルドの工人は富裕な商人たちにより協業による問屋制生産によつて支配されるようになった。近世初頭の

新大陸の發見による市場の飛躍的擴大は一層商業資本の進出をうながし、ギルド規約を利用しつゝギルド成員である親方たちを交易面から脱落させ賃金労働者の存在にし、マーカンチリズムによる各國の産業振興策はギルドの保守性を國家權力によつて制約しつゝ新産業の助長、新生産方式の採用をして極度に商業資本を育成した。生産増大の努力は作業過程の分業化の方向へ進むとともに人間労働力を自然力、機械力によつて補足する方向にも進められ畜力、風力、水力利用から二世紀にわたる模索をへてワットの蒸気機關の發明(1765年)により、すでになまのまゝの自然力を原動力とするいろいろの器械を用い、分業化した生産方式をもつていた西歐は英國を最初にして産業革命へ移行し、かつて秘傳と道具による手工業技術によつて市場を支配した多くの職業の親方、職人たちを一様に眞の賃銀労働者に變化させてしまった。

わが國では鎖國(1638年)以前に西歐との交渉が多くなり貿易も伸張しようとしたが、徳川幕府の鎖國によつて貿易均衡を有利にし國富を増すために西歐諸國によりなされた積極的な商業資本の育成がおこなわれなかつた。封鎖經濟の社會體制は商品・貨幣經濟と商業資本の發達により動搖しはじめ、武士階級内部の上下對立と西歐諸國の強力な鎖國排除を機會に明治維新(1868年)となつた。この頃商人は職人の資材供給者となり一部の居職人は賃銀労働者のようになりつゝあつたが、まだ西歐の間屋制生産にみられるほどの分業化はなく、産業革命を自然に招來するだけの技術的發展もしていなかつた。二世紀におよぶ國家の立遅れを取りもどすためには富國を國是として産業の國家保護、技術の國家的育成が強力になされねばならなかつた。マーカンチリズム時代の西歐でなされたように産業の保護獎勵、國營、民間拂下げがあらゆる部門でなされて技術は移植され産業體制は一應ととのえられ成果はあがつた。ギルドに對應するわが國の「株仲間」は明治5年に廢止されて就業自由となつたが、商業資本の小さいわが國では、その急速な育成のために資本は典型的な機械制生産部門のみ集中されて生産機構の全面的近代化はおこなわれず、さらに人口の異常な増加によつて中小企業労働者が産業人口の主體をなしているいろいろの社會問題をおこしている。機械制生産に完全に移行しなかつた部門では、特權や保護のなくなつた手工業者は自らの技術、またはこれに簡単な工作機械一、二臺をもつて細分化された下請生産で、問屋により支配された低賃銀の職人となり、獨立手工業者も競争者がに變多く機械の進出におびやかされ、あるいは急速化する社會に無縁となり秀れた技術をもちながら多くは工藝生産部門に再編成されることなくしだいに姿を消しつゝある。(1951、飯田喜四郎)

~~~~~  
カットは中世バリの金彫師親睦組合の印章。ギルドには互助懇親のため職業に縁のある聖人崇拜を中心にして親睦組合が作られていた。わが國の大工仲間が聖徳太子をまつると同じで、中國のギルドにもみられるものである。